

黒毛和種去勢牛の短期肥育試験

背景・目的

県内農家における黒毛和種牛の平均出荷月齢は30ヵ月齢程度

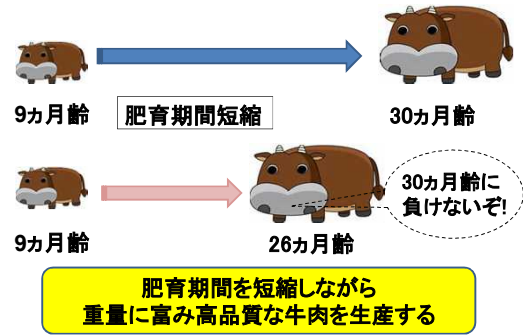


肥育期間を短縮(26ヵ月齢)した上で高品質な牛肉を生産できれば



生産コストの低減や牛舎の回転率向上により経営向上に繋がる！

短期肥育による熊野牛の低コスト生産技術の開発



試験方法

【目的】

黒毛和種去勢牛の短期肥育(26ヵ月齢出荷)において、

- ・肥育前期の粗飼料給与水準
- ・育成用配合飼料から肥育用配合飼料への切り替え時期の違いが、その後の発育および枝肉成績に及ぼす影響を調査しました。

【試験区分】

26ヵ月齢出荷を目標として、下記の2つの試験区を設定しました。

- ・短期区: 当試験場の慣例法による通常肥育
- ・短期+粗多区: 肥育前期に粗飼料を多給し、肥育用配合飼料への切り替えを1ヵ月早めた肥育

【供試牛と肥育ステージ】

各区6頭ずつ計12頭の黒毛和種去勢牛を肥育前期(9~12ヵ月齢)、中期(13~22ヵ月齢)、後期(23ヵ月齢~出荷まで)に分けて約17ヶ月間肥育後、26~27ヵ月齢でと畜しました。

給与飼料

飼料名	乾物量(%)	粗タンパク(%)	可消化養分総量(%)	カルシウム(%)	リン(%)	ビタミンA(IU/kg)
育成用配合	87.0	17.0	70.0	0.40	0.30	6,000
肥育用配合	87.0	12.0	73.0	0.10	0.40	21
チモシー	88.8	8.6	55.2	0.37	0.26	3,600
イタリアン	91.1	5.7	51.9	0.46	0.19	1,200

(原物中)

短期区

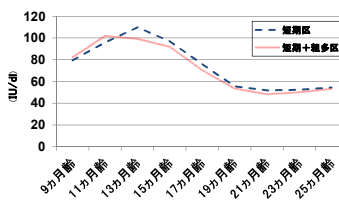
月齢	9	10	11	12	13	14~26
飼料/kg	4	4	5	6	3	
育成用配合					4	8~10
肥育用配合						
チモシー	4	4	1			
イタリアン			3	4	3.7	3~1.5

短期+粗多区

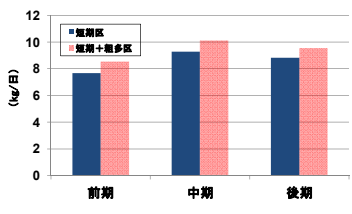
月齢	9	10	11	12	13	14~26
飼料/kg	4	4	5	3		
育成用配合				3	7	8~10
肥育用配合						
チモシー	5	5	2	1		
イタリアン			3	4	3.7	3~1.5

研究結果の概要

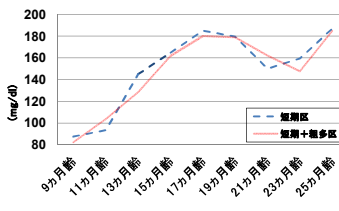
血清中ビタミンA濃度の推移



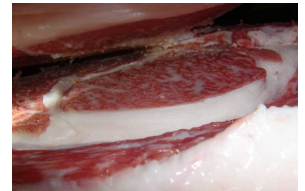
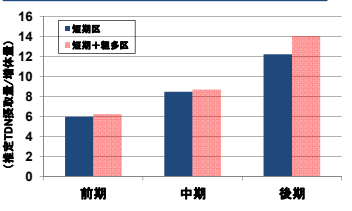
各肥育ステージにおける乾物摂取量



血清中総コレステロール濃度の推移



各肥育ステージにおけるTDN要求率



(短期区供試牛 25ヵ月齢時 体重約790 kg) (短期+粗多区供試牛 枝肉重量539.8 kg BMS No. 8)

試験牛の枝肉成績

試験区分	頭数	枝肉重量	歩留等級			
			胸最長筋面積	ばらの厚さ	皮下脂肪の厚さ	歩留基準値
短期区	6	465.2 ± 43.8	52.5 ± 7.4	6.95 ± 0.62	2.83 ± 0.61	72.5 ± 0.94
短期+粗多区	6	466.7 ± 38.0	53.2 ± 5.4	7.55 ± 0.85	2.55 ± 0.89	73.1 ± 0.65
		BMS No.		肉質等級		
		5.0 ± 1.3	3.8 ± 0.4	6.0 ± 1.4	7.0 ± 1.5	8.0 ± 1.6
		5.3 ± 1.7	3.8 ± 0.8	6.3 ± 1.8	7.3 ± 1.9	8.3 ± 1.1

・血液性状、乾物摂取量、TDN要求率、枝肉成績、いずれも両試験区間に有意な差はみられませんでした。

まとめ・今後の推進方向

・肥育前期に粗飼料を多給し育成用配合飼料から肥育用配合飼料への切り替えを早めた短期+粗多区と、通常の肥育方法で26ヵ月齢時に出荷する短期区で発育状況や枝肉成績に差はありませんでした。

・歩留が標準となった個体や、肉の締まりや色沢で低い等級の個体が見られました。今後は、それらの改善策について検討します。また、枝肉重量やBMSナンバーでも更に改良を重ねていきます。